

(議事要旨 3) 企業会計基準委員会の最近の活動状況について

企業会計基準委員会（ASBJ）の小賀坂委員長及び川西副委員長より、のれんに関する国際的な検討の状況及び日本基準を国際的に整合させる取組みを中心として ASBJ の最近の活動状況についての報告が行われた。

その後、以下のとおり、基準諮問会議の委員より意見が出された。

- 金融商品の会計基準の開発について、金融資産の減損に関して、時価のある債権と貸付金を同様に扱う場合、恣意性が増す懸念があるため、今後の検討においてその点も議論していただきたい。
- リース会計について、実務対応報告 18 号により、日本基準の連結財務諸表の中で、国際的なリース会計基準の影響が出ることとなっているため、財務諸表利用者の理解が難しいものとなると認識している。そのため、日本基準についてもできるだけ早く開発を行うことが望ましいと考える。
- 金利指標改革に関する会計上の問題について、IASB、FASB とともに検討が進められており、国際的な状況も踏まえて、適時に検討していただきたい。
- 金融商品の会計基準について、金融機関においては、減損の論点は重要であるため、速やかに検討いただきたい。加えて、金利指標改革に関する会計上の問題についても、金融機関における関心は高く、計画通り基準開発の可否を含めて検討いただきたい

リース会計基準については、米国会計基準や国際会計基準について、実務への適用が難しいという話があり、基準開発にあたっては具体的な適用に関する課題という論点や、そうした課題も踏まえたうえで単体財務諸表への適用の必要性と言った論点についても、留意して検討していただきたい。

以 上